

濃厚飼料の増給について

エサの給与内容を急に変更すると、食滞や乳量・乳成分の低下を招くだけでなく、疾病を引き起こす場合もあります。

特に穀類等の濃厚飼料を増給する場合には注意が必要です。

一 第一胃の環境を安定させましょう

第一胃内には様々な微生物が共生しており、第一内の環境を安定した状態に作り上げています。

一度に大量の濃厚飼料が給与されると、表一に示すように、酸に強いデンプン分解菌が優勢となり、第一胃内のpHが低下します。

表1 第一胃内細菌の至適pHと世代交代時間

種類	至適pH	世代交代時間
繊維分解菌	6.3-6.8	8-10時間
タンパク分解菌	6.0-7.0	4-8時間
デンプン分解菌	5.5-6.5	15-30分

飼料給与セミナー09/05/25

スニッフエンより（一部改変）

一方、繊維分解菌やタンパク分解菌はデンプン分解菌とくらべ、世代交代時間（増殖して倍の数になる）時間が長いです（表一）。そのため、一度その数が減ってしまうと、なかなか元に戻りにくくなります。

したがって、濃厚飼料を増給するときには、エサの食い込み、反芻、乳量・乳成分などをよく観察し、徐々に増すようにしましょう。

二 デンプンを多く含む濃厚飼料の増給

乳牛が次のような状態の場合はエネルギー不足が疑われます。

- ・乳牛が痩せている
- ・飛節が腫れている
- ・放牧草や高水分サイレージを給与して糞が軟らかいとき
- ・発情兆候が弱い、見せない
- ・乳タンパク質、無脂固形が低い
- ・乳中尿素窒素(MUN)が高い

このようなときは、とうもろこしや大麦など、デンプンを多く含む濃厚飼料を給与し、エネルギーの充足をはかりましょう。

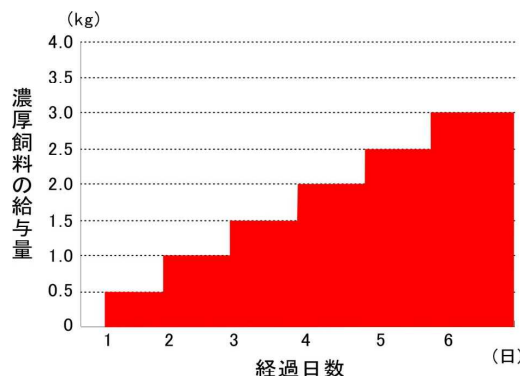


図1 デンプンを含む濃厚飼料の増給イメージ（現地事例）

図一の増給イメージは、飼料設計にもとづき、デンプンを含む濃厚飼料を一日あたり3kg増給することになった現地事例を示しています。



写真1 仕切りを付けた給餌運搬車

写真は、複数の濃厚飼料を給与するため、給餌運搬車に仕切りを付けた事例です。こうすると、一回の給餌作業で数種類の濃厚飼料を給与することが可能となります。

とくに分離給与で、デンプンを多く含む濃厚飼料を上手く増給している、現地事例を示します

ポイント1

増給の速さ

三〇〇〜五〇〇g/日/頭

※作業を簡略化する場合は二〜三日で一〇kg程度増給

ポイント2

粗飼料をしっかりと食い込んでいることを確認する

※食滞や反芻の低下、急な軟便などの異常が見られたら、粗飼料の食い込みが回復するまで濃厚飼料は増給しない

みなさんの農場でも、濃厚飼料を増給するときにはご注意ください。

（平成二十五年二月作成）